

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数の増加は継続しており、現状のままでは12月中旬には本格的な流行となることが予想される』

2016年11月29日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2016/2017年シーズン）の2016年第47週（11月21日～27日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>）によると70,657であり、第33週以降15週間連続して増加が続いています（図1）。また、休日明けの第48週（今週）の月曜日（11月28日）の推定患者数は18,534と今シーズンの1日の患者数の最高値を更新しました。既に第45週（11月7日～13日）から全国的な流行は始まっていますが、今週は更に患者数が増加するものと思われます。

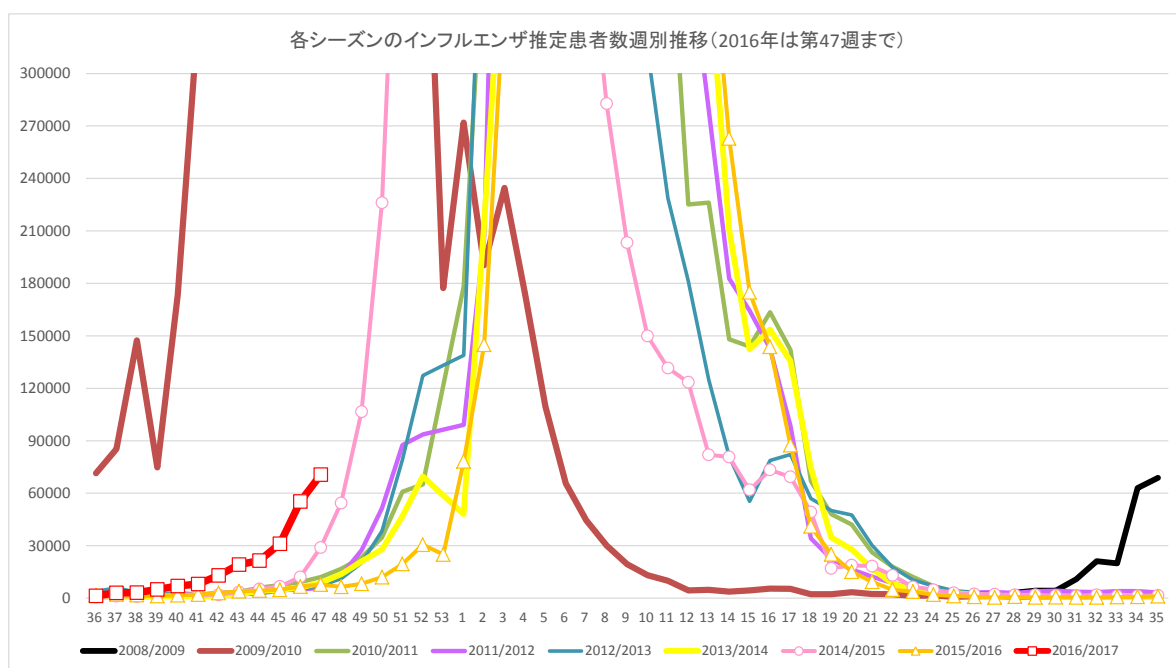


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第45週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、北海道、富山県、岩手県、栃木県、沖縄県、奈良県、群馬県、東京都、広島県、岐阜県の順となっています。

2016 年第 36 週から第 47 週までの累積の推定患者数は 238,279 であり、年齢群別では 5～9 歳（13.6%）、40～49 歳（13.1%）、10～14 歳（12.6%）、30～39 歳（12.5%）、20～29 歳（10.2%）、15～19 歳（8.8%）、0～4 歳（8.7%）の順となっています（図 2）。5～9 歳の年齢群を中心とした小児の患者数の増加が目立ちます。

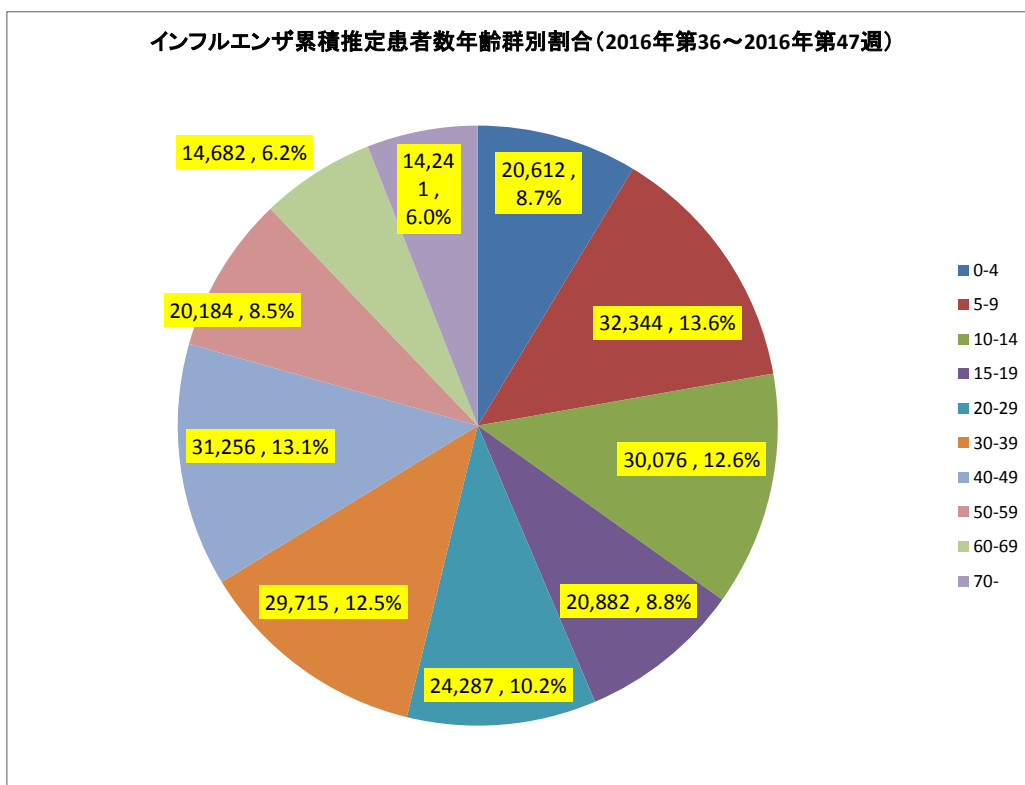


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2016 年第 36～2016 年第 47 週、累積推定患者数= 238,279）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（222 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 86.5%と大半を占めており、次いで A/H1pdm 9.9%、B 型 3.6%の順となっています（図 3）。

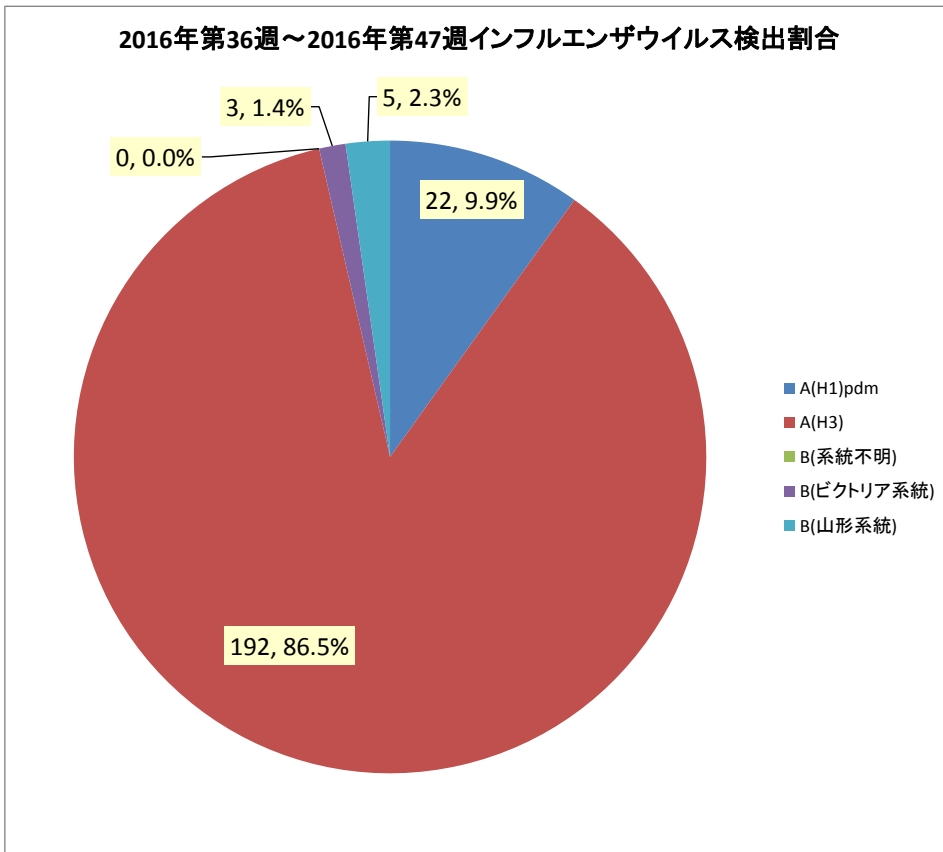


図3. 2016年第36～2016年第45週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=222)

今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりは季節性インフルエンザとしては2009年の薬局サーベイランス開始以降では最も早く、現状のままでは12月中旬には本格的な流行となることが予想されます。これからのインフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。